

「西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学法学部修士1年 中川翔貴

① 学習成果

西安交通大学への派遣を通じて、中国語の語学としての必要性和より実践的なリスニングとスピーキング練習の重要性を感じました。派遣前に学部時代に1年6か月の中国語学習歴がありました。しかしながら、どちらかというと文法と作文に重きを置いた授業であることが多く、さほどリスニングとスピーキングの練習を重ねることは多くありませんでした。2週間の研修で、日常生活のリアルな中国語を常に耳にすることまた、中国語の講義でピンインを指摘されながら学ぶことで、リスニングとスピーキングが大維持であることを認識し、正確な発音をマスターすることが最重要であることを身をもって学びました。普段の大学の食堂で注文したり、宿泊先のホテルのフロントでの問い合わせなどの場面で、綴りこそ正しいが四声が漢字通りになっていないことがしばしば生じ、今までの発音練習が生ぬるいものだと初めて知りました。そのため、定期的に中国語のネイティブの人と話す機会を持ちつつ、常に耳から情報を得ることを心がけるようになりました。また、中国語はある程度語彙力がなければ、話す内容が理解できないことが多いので、実践的な場面を想定して単語を覚えるようにしました。現在、中国への留学の予定はわかりませんが、HSKの試験の上級でハイスコアとれるように中間的な目標を立てて勉強する予定です。

② 海外での経験

今回が初めての中国での滞在だったので、新鮮に感じることも多くありました。特に中国の歴史の長さや現地の学生の気質にたいして大変刺激を受けました。このプログラムを通して様々な観光地に訪れましたが、歴史的な名所が多く、その歴史も2000年以上、紀元前のものばかりなので日本と比べ物になりません。また現地の学生は向上心の高い方が多く、やりたいことにたいしてアクティブに実直に勉強していました。ボランティアでお世話になった学生の方々も日本語が流暢で、とても4年間で習得したものとおもえませんでした。生活面でも、日本との違いを認識することは多く、戸惑いもありましたが、いい経験だったと思います。

③ プログラム内容

今回のプログラムでは、基本的に午前中に中国語の授業で、午後は中国の書道、詩、武術に触れたり、実際に西安市周辺の歴史的な観光地に赴いて文化を学びました。中国語の授業は、日常会話、実際に使う場面を想定して複文を交えてスピーキングとリスニングに重点を置いて学びました。最終日の試験は、中国語でのプレゼンテーションでした。まだ発音が完璧にできてなかったこと、また構成に改善の余地があったことから反省する点は多くありました。このようなプレゼンテーションをすることで、現時点での中国語の運用能力また中国語に限らず伝わりやすい表現を心がけることの大切さを再認識しました。

④ 進路への影響

本プログラムを経て、発音や文法など勉強すべき点は多く見付き、今後の学習に生かしていきたいと思っています。将来的に弁護士または検察官志望であり、企業法務あるいは法整備支援において携わりたいと思っています。中国語を必要とされる場面は少なくないと思いますので、その来る将来の業務に向けて日々継続的に学習していきたいと考えています。